

いつでも、どこでも、アメリカの戦争に参加する

戦争法案

平和安全法制

STOP!

安倍内閣は、国民の大きな反対世論の前に可決できなかった「戦争法案」を、国会を9月27日まで的大幅延長し、強行可決を狙っています。会期を延長しても、危険な本質は変わりません。反対の声をさらに大きくしましょう。



危険1

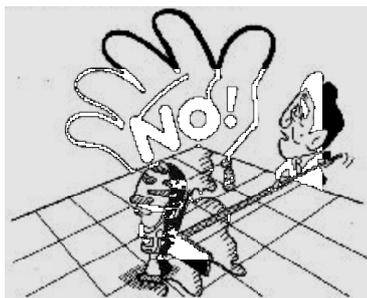
「国際平和支援法」？ その正体は国際戦争支援法！

米国の戦争を支援するために、いつでも自衛隊を派兵できる新たな海外派兵恒久法の名称が「国際平和支援法」。自衛隊がおこなう支援は、補給・輸送・修理・整備・医療など多岐にわたります。この法律により、弾薬の提供、戦闘行動のために発進準備をしている航空機への給油・整備も可能になります。「国際平和支援法」の正体は、「国際戦争支援法」にほかなりません。

危険2

「戦闘地域への派兵で自衛隊員に 確実に犠牲者が出る」と不安広がる

今回の「戦争立法」では、これまで禁じられていた「戦闘地域」への自衛隊派兵を認めています。また、銃弾が飛び交う「戦闘現場」になっても、活動を休止するだけで、撤退はしないと決められようとしています。自衛隊員の武器使用については、「自己防護」（正当防衛）に限られてきたものから、大きく拡大。自衛隊の任務の危険性が格段に高まり、戦死者が出ることは避けられません。



危険3

日本が攻撃されていないのに、 「存立危機事態」「重要影響事態」で参戦

日本が攻撃されてもいないのに、「存立危機事態」と政府が判断すれば参戦するしくみをつくろうとしています。また、「重要影響事態」（＝日本の経済や社会に重要な影響を与える事態）と判断すれば、「日本周辺」に限らず世界中で米国の戦争支援を行おうとしています。

マスコミ懲らしめろ 沖縄2紙をつぶせ

安倍首相に近い自民議員による勉強会で、参加した議員や講師の百田直樹氏から、辺野古新基地に反対する沖縄の人々をおとしめたり、「戦争法案」への批判的記事を掲載するマスコミを、威圧する発言が相次いだことが明らかとなりました。



言論弾圧、 国民弾圧

安倍政権の本質そのもの

これは、言論の自由への絶対許せない恫喝発言です。安倍首相は、「遺憾だが、党の正式な会合でない」と居直る始末。その後も他の議員から、同趣旨の発言が続いています。「戦争法案」成立後には、言論弾圧、国民弾圧が待ち構えています。

野中 広務元官房長官 「誇れる憲法守らねば」

野中広務元官房長官は、南丹市のイベントに参加。「集团的自衛権行使を認める法整備に強く反対した上で、『偉大で誇れる憲法を守っていかねばならない』と呼びかけた。」（5月11日付「京都」）

声を上げるのは今

安倍首相に未来奪われたくない

国会で審議すればするほどボロボロになる「戦争法案」。国民の大きな反対世論の前に国会会期中に成立できませんでした。ところが安倍政権は、国会会期を9月27日まで大幅延長し、「戦争法案」の強行可決を狙っています。



河原町通周辺の繁華街が、戦争法案反対の青年でいっぱい(関西SELDs呼びかけデモ)

STOP戦争法案

今、「戦争法案」に反対する声と行動が、急激に広がっています。6月21日、京都で行われた青年・学生のデモは、ドンドン膨れ上がり2200人以上の規模に。

立ち上がる青年たち

「権力に逆らうことには勇気がいる。就職や世間体が気になって逃げだしたい衝動に駆られる」「それでも、私が背負い込むリスクよりも、現政権に身を委ねた結果訪れるリスクの方がよっぽど恐ろしく思える。もう他

人ごとではありません」これは、戦争法案に反対する学生団体が行ったアピール行動での学生たちの主張です。

就職難の中での彼らの切羽詰まった思い、それでも行動を選択する彼らの勇気に胸が締め付けられます。

寝てはいられない

93歳の寂聴さん国会前で渾身の訴え

作家で93歳の瀬戸内寂聴さんは、「病気で一年間寝たきりだったが、寝てはいられない」と6月18日、国会の前に立ち、「戦争法案」反対を、まさう。



写真は「しんぶん赤旗」より

戦争法案阻止の行動に立ち上がろう！訴える作家の瀬戸内寂聴さん